

路地百選推薦書

推薦者氏名：司波 寛

推薦する路地（のまち）の名称	WALLED CITY
所在地	パキスタン ラホール市

【推薦する理由（路地のよいところ）】

地区内には、古い見事であったと思われる建築も点在しているが、商店、住まいとして使われ、維持管理状態は決して良いとは言えない。一部広げてしまって道路と化したところもあるが、路地が巨大なネットワークをつくっており、どこでも人が群れている。子供が多いのが目についた。産業も多様で、小売業が多いが、織物と履物の卸商の集積地や、加治屋、鉄鋼業、楽器製造・販売、印刷屋、食料品製造、家具製造・販売等、ありとあらゆる極めて零細な事業者が、一生懸命生きている。

この産業を支える物流は、主流はデカイ荷物を肩に乗せて運ぶ人力であるが、路地に入れる幅さえあれば、車、オートバイ、ロバの牽引する荷車、何でも入ってくる。

また、その狭い路地を占拠している、物売りも目立つ。北の一角に警察署が建設中(2011年5月現在)であるが、警察官が常駐したところで、この路上不法占拠は収まらないだろう、という新聞観測記事もある。

日本が失った、喧噪の巷というところか。何しろ、ここにいると自然にアドレナリンが発散してくる感じ。

【写真】



繊維問屋街



カメラにポーズを取る少年



かつてはみごとであったに違いない建築

路地	面積	約 256 h a	路地の延長	約 m
のまちの概要	まちの成り立ち、特色等	歴史は定かでないようだが、デリーに首都をおいたムガル帝国時代（17世紀～18世紀、ほぼ徳川幕府の時代と重なる）に、既に存在した市街地を城壁で囲み、隣接して巨大なモスク(現地語でマスジット)を建たようである。この城壁には13のゲイトがあったが、1849年にイギリスの支配が確定すると、彼らは城壁の大部分とゲイトのうち7ゲイトを破壊し、その後を緑地にした。現在、この緑地は超高密度な住まい方をしている城内、近傍の人々の憩いの場となっている。面積は256ha、人口は最盛期で20万と言われているが、現在は14万人程度である。それでも、グロス人口密度600人/ha近く、最高密度地区は1700人/haと言われる。		

※路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。